【特集: 21 世紀型水田農業モデルほ場整備促進事業】

完工記念フォーラムの開催　～完工記念誌より～

1. ほ場整備の変遷と21世紀型水田農業モデルほ場整備促進事業

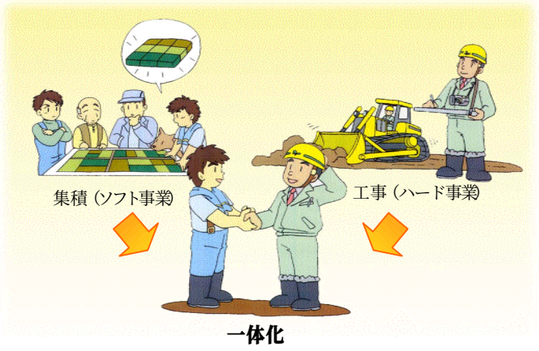
ほ場整備は、昭和３８年農業基本法に基づき土地の生産性向上を目指し、機械化ができる農地を作る（区画整理）ことからの始まりでした。

しかし昭和６０年代に入ると農業者の高齢化、担い手の減少が問題視され、面工事と担い手育成を考慮した新しいスタイルのほ場整備へとシフト替えが始まりました。昭和６１年には高度利用集積大区画圃場整備事業が打ち出され、続いて平成元年には低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業がスタートしました。この事業は低コスト化営農モデル計画を作成するというインセンティブを持たせた地域主体のもので、時代背景を追い風に県内各地区で積極的に導入が図られました。

さらに平成３年には、これまでの事業を総括したモデル事業として、画期的な「２１世紀型水田農業モデルほ場整備促進事業」が誕生しました。特色としては農地の連坦化で担い手が耕作する２ｈａ以上の連坦化団地を全体面積の５０%以上作ることで、事業費の１０%相当以内を促進費として交付する内容となっており、要件を達成すると農家負担が２%程度になるため、採択希望が殺到し結果的には２６地区で実施することとなりました。

以上のように、昭和３８年以来ほ場整備は土地に着目した整備に始まり、平成元年以降は担い手及び農地集積を重要視した、農地・担い手・集落まで包括する総合整備へと移行され、今日の経営体育成基盤整備事業に進化してきたものと思われます。

(宮城県農業公社　事業局　農地管理班長　鈴木　和信)



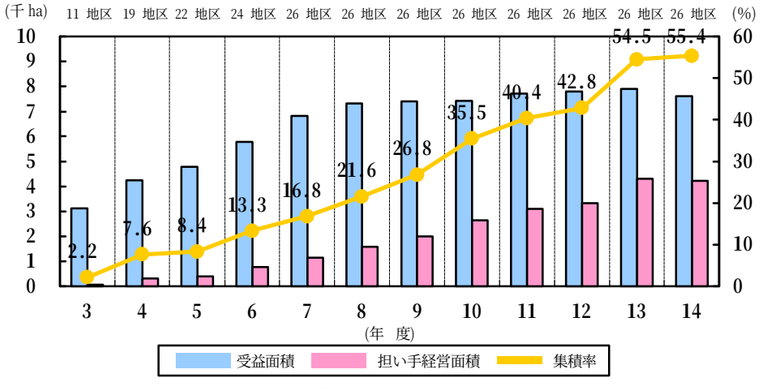
一体化

2. 事業実施地区の概要

着工	完了	地区名	事業費j(百万)	高生産性農業区面積(ha)	2ha以上の連担団地面積(ha)	農業生産集積率%
3	11	豊里	11,506	932.0	508.9	54.6
3	11	桃生町２期	5,078	427.2	264.5	61.9
3	7	大清水	795	31.3	18.9	60.4
3	9	西小山田	557	42.0	24.3	57.9
3	10	宮沢	1,198	58.2	31.7	54.5
3	10	上沼北部	3,042	207.0	116.8	56.4
3	11	須摩屋	1,904	151.6	77.0	50.8
3	11	高木	1,795	136.7	81.5	59.6
3	11	二郷第三	2,046	274.2	147.2	53.7
3	12	桃生町３期	1,671	143.0	79.0	55.2
4	9	荒浜	747	48.4	25.9	53.5
4	12	二郷第四	2,565	273.8	139.4	50.9
4	12	中埣	1,020	79.4	43.8	55.2

着工	完了	地区名	事業費(百万)	高生産性農業区面積(ha)	2ha以上の連担団地面積(ha)	農業生産集積率%
4	13	涌谷東	3,026	187.9	110.2	58.6
4	13	鳴瀬第一	2,441	186.4	120.9	64.9
4	13	五輪崎	5,975	300.2	164.7	54.9
4	13	木間塚	3,906	277.5	151.7	54.7
4	15	大谷地	13,584	959.0	568.8	59.3
5	12	南下	442	33.4	21.8	65.3
5	13	通丁	701	68.2	35.4	51.9
6	13	中田中部	4,058	275.7	152.9	55.5
6	14	桃生町４期	2,239	103.2	65.2	63.2
7	13	桃生町５期	1,450	116.6	75.4	64.7
7	15	石越南部	8,284	609.9	318.8	52.3
1	15	小野田宮崎	6,227	1,481.0	888.0	60.0
3	13	大谷野	766	82.0	45.2	55.1

[担い手経営面積と集積率の推移]



(平成 15 年 5 月末現在)

整備と集積の連携により

全26地区目標達成!!

農業生産集積率

55.4%(県平均)

地区アグリセンター活動↓

↑地中海キャベツ生産団地

[豊里町　豊里地区]

3. 地区事例紹介より

①大谷地地区　～農機具の変遷～

手作業が中心だった水稲の農作業に昭和４０年代から機械化が図られ、バインダー、田植機等が導入されています。昭和５０年代には、乗用田植機、乗用コンバイン等が導入され、ほ場整備後は、経営構造対策事業等により水稲の大型乾燥施設を始め大豆乾燥施設等の施設、普通型コンバイン等の大型機械の導入が図られました。

二条式田植え機～手刈りの稲刈り～バインダー～乗用田植機～ハーベスタによる脱穀～乗用コンバイン(下)～普通型コンバイン(右)

②南郷町全地区　～多彩な産業の展開～

南郷町農産物直売所

花 野 果　市場

事業名：平成 12 年度経営多角化等施設整備事業

概　要：町内の農産物及び農産加工品等の広範な紹介。消費者と農業者がお互いに顔を見て情報交換ができる農産物直売所を設置し、都市住民と農業者の積極的な交流を推進してパートナーシップを構築すると共に、農産業の活性化による多様な農業の担い手の育成、さらには農業所得の向上を目指している。

(有)　ハニーローズなんごう

事業名：平成 10･11 年度地域連携確立農業改善事業

概　要：地域のバラ生産を行う農家が 4 人で生産法人を設立し、古タイヤを暖房用燃料として活用するなどして、資源活用型ハウス(省エネルギーモデル温室(A＝2ha)を建設。現在地元の女性パートタイマー23 名を雇用しており、面整備による生産性の向上が生み出した余剰労力を積極的に活用することで、バラの専作経営を展開している。

年商はなんと 1.5 億円！！

4. 水田の四季と生き物の紹介より

事業により整備された水田は、季節の移り変わりとともに四季折々の美しい風景を生み出します。今後も環境への配慮を怠ることなく、美しいみやぎの田園を守っていきたいものです。